

違う社会を知ってもらいたいのが原点

デンマーク一般事情

レポート：中野暢介

★同じ場所を拠点にしてより深く

このレクチャーが今回の研修のスタートでした。今回この研修をコーディネートしてくださる澤渡夏代さんからレクチャーをしていただきました。

まず澤渡さんが強調されたのは、この研修の目的は「違う社会を知ってもらいたいのが原点」、「一日二日ではその国の本質はわからない、同じ場所を拠点にしてより深くデンマークを知ってもらいたい」という主旨のお話がありました。

その後、デンマークが幸福度調査世界一であるとお話がありました。例えば子育てに関していえば、デンマークでは子育ては「自分自身を成長させる方法」であり自分がここまで成長できているという実感が満足感＝幸福につながっているとのことでした。

★デンマークの行政区分

次にデンマークの行政区分についてのお話がありました。2007年に14県から5レジョン（地域）に再編され、福祉、ライフライン、文化、交通、小中の基礎教育に関しては98の自治体が担うとのことでした。

★競争や管理から生まれるものは何もない

続いてデンマークの歴史についてお話がありました。1849年に民主主義がスタート、すべての政党が「社会福祉国家」である点、国全体に競争や管理から生まれるものは何もないという考え方が浸透している点、「みんな違ってみんないい」といった今のデンマークを形成してきた原点についての貴重なお話でした。



＜障がい者センター/カルチャーセンターにて＞

それは福祉分野も例外ではない点が印象的でした。福祉 (welfare) における幸福とは健康・快適な生活などを含めた意味の幸福であり、豊かな福祉＝豊かな生活という考え方が日本とは根本的に違うことを直感しました。

★大学が見極めて入学が可能

さらに背番号制度（誕生日＋番号）がある点や「子どもは自分たちが欲しいから産む」、「若者の歯並びや犬の躰」の話などを聞き手が飽きないよう、時に熱く時にユーモアたっぷりに話していただきました。驚いたのは大学の入学試験がないという点。将来デンマーク社会にどのように寄与するのかを大学が見極めて入学が可能であるとのこと。また、18歳になった子は親の扶養義務がなくなる（行政が受け持つ）や主婦という言葉は

死語であること、年金が 190,000 円/月で恵まれており、65 歳からは第三の人生がスタート（旅行、スポーツなど）するのが一般的である点にも衝撃を受けました。

★必要なとき、必要なだけ、必要な援助を

介護や看護の分野では「必要なとき、必要なだけ、必要な援助をする」という言葉が現場で具体化されている点に感嘆しました（ちなみに日本は保険制度、デンマークは税金拋出）

デンマークの介護の考え方として三本の柱があります。それは「人生の継続性、自己決定の尊重、残存能力の活用」です。日本でもこのような考え方は講義や研修ではよく耳にしますが実際の現場はどうでしょうか。デンマークでは人生の継続性という観点からホームは当然家であり、施設という概念は存在しません。このことは翌日からの研修で実感することになります。

★投票権は神様のプレゼント

また国政選挙投票率が 85%以上である点にも感心しました。「投票権は神様のプレゼント」との考え方が浸透しており、正しい民意の代表を自分たちが選ぶという国民性は素晴らしいと感じました。

ただ課題もあり、難民、移民問題は特に大きな問題となっているようです（移民が子どもを 5~6 人産むと補助だけで生活できることなど）

今回のレクチャーを通じて感じたことは、デンマークは素晴らしい国ではありますがそのシステムをそのまま日本に当てはめることはできない点（デンマークは隣国と良好な関係で軍備に税金をあまり割かれないことなど）、デンマークの良い面をいかに自分たちの国に取り入れていくのか、そのためにはどのように行動していけばいいのか、といった点を考えさせられました。



<入居者訪問>